

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷一第

論說

●染料藥品生產獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(二)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(三)

雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領地研究ノ一やっふ島研究

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農産擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

法學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 高田 保馬

講師 河上 肇

法學博士 河上 肇

法學博士 河上 肇

近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

法學博士 河上 肇

近頃は、その氏ノ公ニシタル論文ノ一節ニ依ルバ、米國ニ於ケル婦人ノ職業ハ近時(一九〇〇年ヨリ一九一〇年ニ至ル)左ノ如キ變遷ヲシテ居ル。即チ其從業者數ハ一九〇〇年ニハ五百三十二萬人デアツタガ、一九一〇年ニハ四割三分ヲ増加シテ七百六十一萬人ト爲ツタ。十歳以上ノ婦人ノ數ハ此期間ニ二割二分ヲ増加シタダケデアルカラ、從業者數ノ増加率ハ人口増加率ニ比シ著ク人デアルト謂ハチバ爲ラス。猶ホ之ヲ各種ノ事業ニ分類シテ表示スレバ次ノ如クデア

家內的及人 的勤勞	婦人從業者百從業者百人中		婦人從業者ノ割合		總數	百分比
	1900	1910	1900	1910		
農	18.5	12.6	2.4	19.6	5,111,000	37
工	25.7	13.1	1.8	13.4	5,910,000	29
家內的及人 的勤勞	56.8	74.3	76.8	67.0	5,679,000	54

自由職業 商業及 交通業	合計(平均)
8.2	100.0
8.8	100.0
3.3	18.3
3.9	39.1
6.0	59.6
6.6	66.0
5.6	56.0

* 九九・八トナレドモ假ニ一〇〇ト記入シ置ク。

右表ニ依リテ見ル時ハ、家內的勤勞ニ從事スル者(女中ノ類)ハ、婦人從業者全體ニ對スル割合カラ云ヘバ減ジテ居ルガ、男女從業者百人ニ對スル割合カラ云ヘハ著ク殖エテ居ル。之ハ男子ニシテ斯カル家內的勤勞ニ從事スル者ガ減ズル爲デアル。カクテ其總數ハ二割五分ノ増加ヲ爲シテ居ルガ、之ハ十歳以上ノ婦人總數ノ増加率ニ割二分ト略ボ雁行シテ居ル譯デア

次ニ工業ニ就テ見ルニ、婦人從業者全體ニ對スル割合カラ云ツテモ、男女從業者百人ニ對スル割合カラ云ツテモ、凡テ多少ノ減少ヲ示シテ居ル。而シテ其絕對數ノ増加モ、家內的勤勞ニ從事スル者ヲ除カバ、其割合ハ最モ少ナイ。

婦人從業者ノ著ク増加シツアルハ商業及交通業ニ關シテデア

婦人ハ、一九一〇年ニハ婦人勞働者千人ニ對シ百五十八人ノ割合ヲ占メ、又是等ノ事業ニ從事シツツアル男女千人ニ對シ同ク百五十八人ノ割合デアアル。而シテ一九〇〇年ヨリ一九一〇年ニ至ル間ノ増加人員絕對數ハ七十萬人デ、其増加率ハ十三割九分デアアル。猶ホ其内譯ヲ見ルニ、一九〇〇年ニハ賣子ガ最大多數ヲ占メテ居タガ、ソレガ一九一〇年ニハ更ニ十萬餘人ヲ増加シ、其増加率ハ六割七分デアアル。然ルニ速記者及「タ、イ、ブ、ラ、イ、タ、ー」ハ同シ期間ニ二十割以上ノ増加ヲ爲シ、今日デハ其總數二十六萬二千人、賣子以上ノ多數ニ上ルコトニ爲ツタ。書記及寫字生ノ數モ十七割以上ノ増加ヲ爲シテ、其總數ハ殆ド賣子ニ近クナツテ居ル。簿記及計算係ハ十五割ノ増加デ、其總數ハ十八萬五千人ニ達シ、電信及電話係ハ三十割ノ増加デ、其總數ハ殆ド十萬ニ垂ントシテ居ル。最後ニ小賣商ニ關係セル者ハ三萬四千ヨリ六萬二千ニ増加シ、約八割二分ノ増加デアアル。要之、『大規模ノ事業ノ發達ハ婦人ノ能力ニ適應スル仕事ノ範圍ヲ廣メタ。此方面

ニ人ツテ來ル婦人ノ數ハ男子ニ超過シツツアル若シ婦人ノ職業ノ性質ニ何等カ根本的ノ變化ガアルナラバ、其ハ是等ノ方面ニ於テデアアル。(1) 猶ホ參考ノ爲メ諸國ニ於テ商業及交通業ニ從事セル婦人ノ數ガ婦人從業者ノ總數ニ對シ如何ナル割合ヲ占メツツアルヤヲ見ルニ、次表ノ如クデアアル。

	前ノ調査	後ノ調査
獨逸 (二八二一九七)	五・四%	九・八%
奧太利 (二九〇一七〇)	四・〇%	四・七%
瑞西 (二八八一七〇)	九・六%	一三・四%
佛蘭西 (二八六一七六)	九・〇%	一〇・一%
伊太利 (二八一七〇)	一・六%	三・三%
和蘭 (二八九一八九)	一〇・五%	一・四%
丁抹 (二八〇一四二)	三・四%	三・五%
瑞典 (二八〇一四〇)	一・九%	三・一%
英蘭* (二九二一七二)	〇・九%	一・九%
蘇土蘭 (二九二一七二)	一・八%	四・一%
愛蘭 (二九二一七二)	〇・三%	〇・九%
米國 (二八〇一四〇)	二・四%	九・五%

* 5% 以上を指す割合

1. C. E. Person, Women's work and wages in the United States (The Quarterly Journal of Economics, Feb., 1915.)

之ニ依テ見レバ、商業及交通業ニ關シ婦人ノ從
業者ノ増加スルコトハ今日ノ文明諸國一般ノ趨
勢デアル。(2)